

第10期

エコアクション21

環境活動レポート

自：平成28年9月1日

至：平成29年8月31日

(発行日 平成29年10月26日)



秋田マテリアル株式会社

目次

1.	組織の概要	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p 1
2.	対象範囲	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p 4
3.	環境方針	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p 4
4.	環境目標	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p 5
5.	環境活動計画	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p 6
6.	環境目標の実績	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p 7
7.	環境活動計画の取組結果と評価ならびに次年度の取組	・・ p11
8.	環境活動の紹介	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p12
9.	環境関連法規等への違反・苦情等の有無	・・・・・・・・ p14
10.	代表者による全体評価と見直しの結果	・・・・・・・・ p14

1. 組織の概要

(1) 事業所名及び代表者名

秋田マテリアル株式会社 代表取締役社長 佐藤 佑介

(2) 所在地

本社 〒018-0402 秋田県にかほ市平沢字深谷地 16 番地 8

TEL 0184-74-5277 FAX 0184-74-5278

E-mail info@akita-material.com

ホームページ <http://akita-material.com>

三森工場 〒018-0403 秋田県にかほ市三森字高田 20 番地

(3) 事業概要

設立年月日 平成 19 年 9 月

事業内容 再生資源（金属、プラスチック等）の回収、加工、販売
産業廃棄物の収集運搬 中間処理 古物商

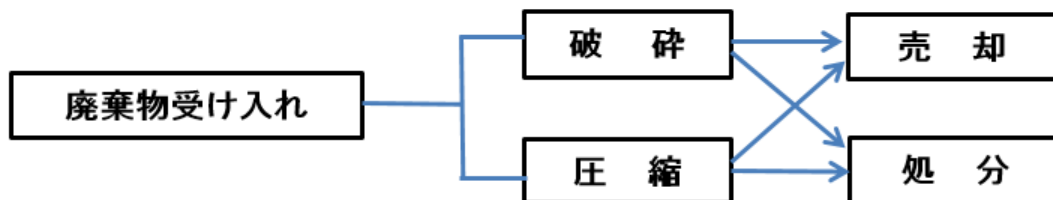
(4) 事業規模

資本金	2,500 万円
従業員数	16 名
敷地面積	本社 4730 m ² 三森工場 7943 m ²
受託した 産業廃棄物の処理量	産業廃棄物収集運搬量 61.08 t (10 期 H28.9~H29.8) 産業廃棄物中間処理量 28.01 t (10 期 H28.9~H29.8)
主要設備	蛍光 X 線分析計×1 台 プレス機×1 台 破砕機×1 台 プラズマ切断機×1 台 アリゲーターシャー×1 台 トラックスケール(40 t)×1 台 フォークリフト×3 台 バックホウ×1 台
収集運搬車両	8 t ヒアブ×1 台 4 t 平ボディ×1 台 3 t ユニック×1 台

(5) 許可及び登録内容

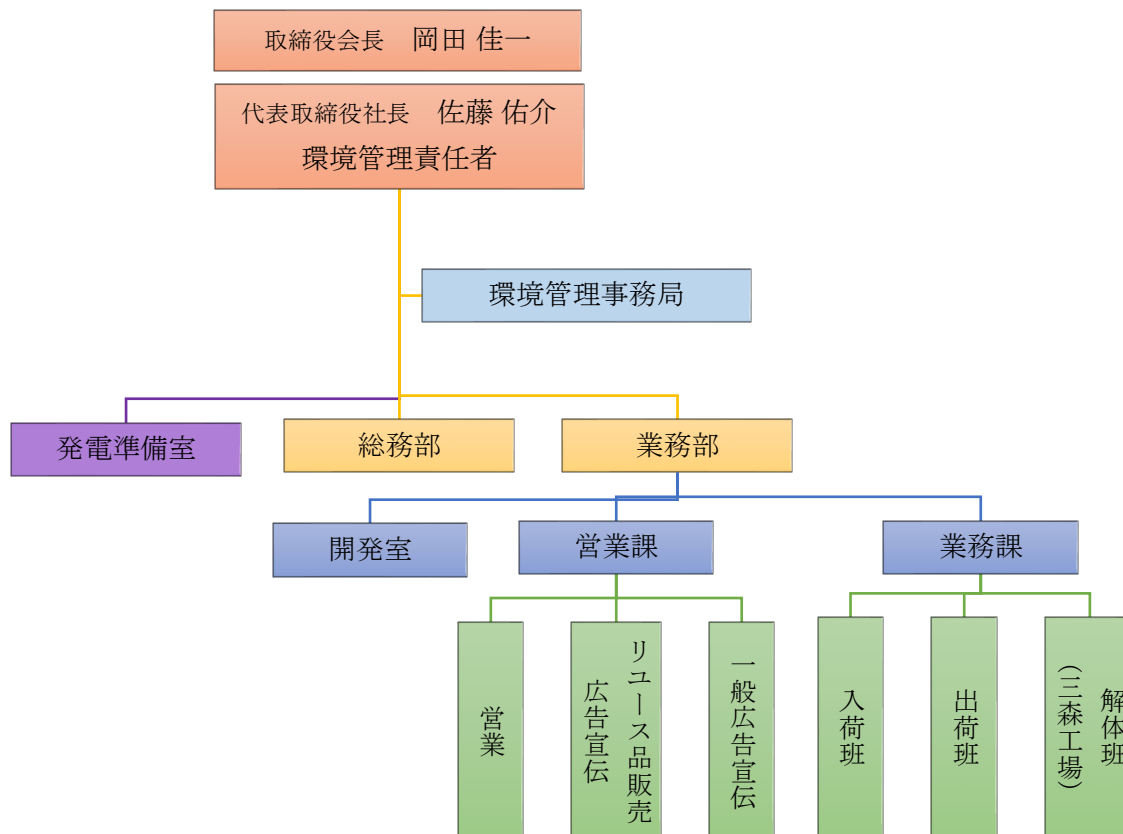
許可証	区域	許可番号	許可年月日	有効期限
産業廃棄物処理業	秋田県	00525142130	平成 25 年 5 月 2 日	平成 30 年 5 月 1 日
産業廃棄物収集運搬業	秋田県	00505142130	平成 25 年 12 月 5 日	平成 30 年 12 月 4 日
古物商	秋田県	231160000245	平成 25 年 7 月 11 日	
再生資源回収事業者認定証		N05K-01063	平成 25 年 9 月 21 日	平成 31 年 9 月 20 日

(6) 産業廃棄物の処理工程図



(7) 組織図と実施体制

組織図



実施体制

	役割・責任・権限
環境管理責任者 代表取締役社長 佐藤 佑介	<ul style="list-style-type: none"> 環境方針の策定 環境管理システムの構築 全体評価と見直しの実施 問題の是正
環境管理事務局	<ul style="list-style-type: none"> 環境管理システムの運用・維持 環境目標の策定 環境活動計画の策定 全従業員への周知 環境活動の実施・管理 環境関連の記録・管理 環境レポートの作成
各担当者	<ul style="list-style-type: none"> 各環境活動の推進と実施確認
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> 環境方針・環境目標の理解と取組の把握 環境活動の実施

2. 対象範囲

全ての事業、全ての組織を認証・登録範囲とする。

3. 環境方針

<環境理念>

近年、地球温暖化や様々な環境問題が深刻化するなか、風光明媚な秋田富士「鳥海山」を望む、秋田マテリアル株式会社は、企業の社会的責任を深く認識し、基本方針を定め、循環型社会形成に貢献します。

豊かな自然を未来へ継承するため、地域社会と連携し、環境保全活動に取り組みます。

<基本方針>

環境関連法規制や条例、その他当社が同意する公害防止協定書(にかほ市)の要求事項を遵守します。また 3R、省エネルギーを推進し、社会に貢献できる事業を展開していきます。

そのために、受け入れ廃棄物の徹底的な解体による分別を推し進め、マテリアルリサイクル率を高める様に努めます。

<行動指針>

1. 二酸化炭素排出量（軽油、ガソリン、電気等）の削減に努めます。
2. 自社の産業廃棄物、事業系一般廃棄物の分別、リサイクルを徹底し排出量削減に努めます。
3. 節水を心がけ、排水量（水使用量）の削減に努めます。
4. グリーン購入を推進します。
5. 場内外美化緑化活動を積極的に行います。

この環境方針は全従業員に周知するとともに、社外にも公表し、地域とのコミュニケーションを大切にしていきます。

制定 平成28年3月3日

秋田マテリアル株式会社

代表取締役社長 **佐藤 佑介**

4. 環境目標

	基準年実績 H26(2014.9～ 2015.8)	9期 単年目標 H27(2015.9～ 2016.8)	10期 単年目標 H28(2016.9～ 2017.8)	11期 単年目標 H30(2018.9～ 2019.8)
削減目標		-1%削減	-1.5%削減	-2%削減
二酸化炭素排出量 (kg-CO ₂)	34,944	34,595	34,420	34,245
軽油使用量 (L)	8,823	8,735	8,691	8,647
ガソリン使用量 (L)	1,364	1,350	1,344	1,337
電気使用量 (kwh)	13,034	12,904	12,838	12,773
灯油使用量 (L)	264	261	260	259
水使用量削減 (m ³)	110	109	108	108
グリーン購入の推進	データなし	エコ商品 2 個	エコ商品 3 個	エコ商品 3 個
場内外美化緑化活動	草刈りの実施	場内外美化緑化活動の計画と実施		

* 電力の二酸化炭素排出係数は東北電力平成 27 年度の 0.589 を使用

* 基準は H26(2014 年 9 月～2015 年 8 月)の値とする

5. 環境活動計画

項目	取組内容	スケジュール
軽油使用量削減 (トラック・重機)	① 定期点検、整備の実施	随時
	② アイドリングストップの実施	毎日
	③ 適切なエンジン回転数での作業	毎日
ガソリン使用量削減 (営業車)	④ タイヤ空気圧の点検	随時
	⑤ アイドリングストップの実施	毎日
	⑥ エコドライブの実施	毎日
電気使用量削減	⑦ エアコンフィルターの清掃	エアコン使用期間
	⑧ 未使用機器のコンセントを抜く	毎日
	⑨ パソコン、プリンターを使用しない時は 省エネモードに切替える	毎日
灯油使用量削減	⑩ 暖房は必要な時のみ使用し、消し忘れのないようにする	暖房使用期間
水使用量削減	⑪ 蛇口の閉栓確認	毎日
	⑫ 手洗い、流し台、洗車時の節水	毎日
グリーン購入の推進	⑬ 環境に配慮した商品の購入を推進	随時
	⑭ グリーン購入に関する知識を深めるため勉強会等の実施	1回
場内外美化緑化活動	⑮ 季節に応じた草花の栽培	随時
	⑯ 地域の清掃活動の実施	年1回
教育訓練	⑰ エコアクション 21 の意識浸透のための説明会の実施	1回
	⑱ 全体会議での進行状況の報告	随時

6. 環境目標の実績

目標項目	基準値【8期】 (2014年9月～ 2015年8月)	【10期】 (2016年9月～2017年8月)		評価	実績の 増減数 (*1)
		目標値	実績値		
二酸化炭素排出量(kg-CO ₂)	34,944	34,420	65,490	×	87.4%増
軽油使用量 (L)	8,823	8,691	18,925	×	114.5%増
ガソリン使用量 (L)	1,364	1,344	1306	○	4.3%減
電気使用量 (kwh)	13,034	12,838	19,358	×	48.5%増
灯油使用量 (L)	264	260	465	×	76%増
水使用量 (m ³)	110	108	144	×	31%増
グリーン購入の推進	データなし	エコ商品 1 個	エコ商品 3 回	○	達成できた
場外内外美化緑化活動	草刈の実施	草刈・場内花植え 場外清掃活動 1 回	草刈実施 3 回 季節毎場内花植え 場外清掃活動 1 回	○	活動できた

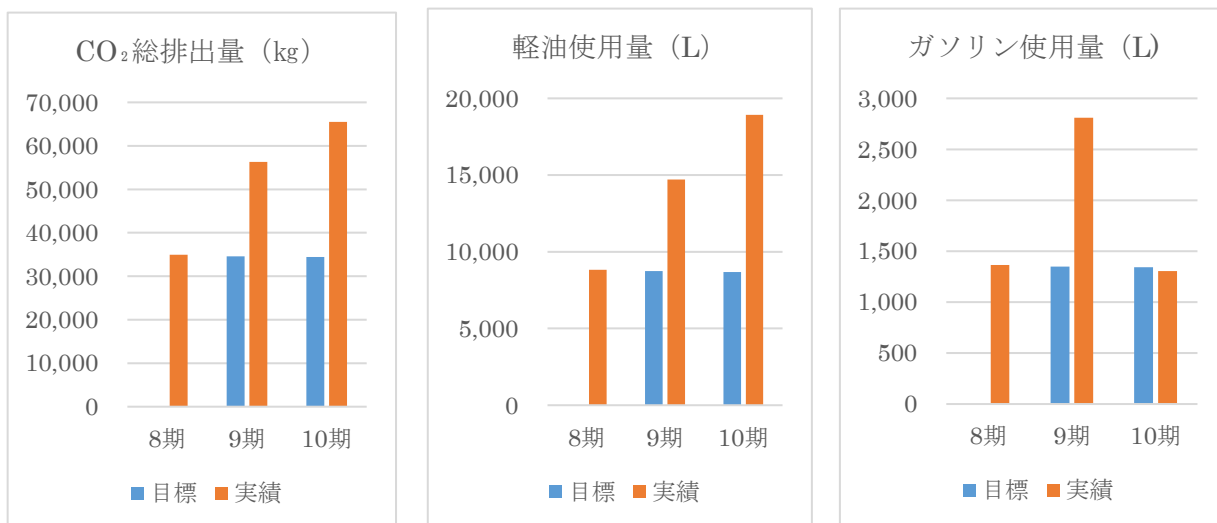
判定○ 判定×

*1：実績の増減数は、基準値比

*電力の二酸化炭素排出係数は東北電力平成 27 年度の 0.589 を使用

*【増減数の計算】(実績値－基準値) ÷ 基準値 × 100 = 増減数 (%) (第二小数点以下 四捨五入)

■CO₂総排出量・軽油・ガソリン使用量の目標と実績



●各項目の評価の補足

<全体の使用量>

- ・基準年は本社のみだったため、全体的な使用量が増えた。

※象潟工場稼働期間（～2016.11）、三森工場稼働期間（2017.2～8月）

<軽油使用量>

- ・基準年に対して、バックホウの使用頻度が約 1.8 倍に増加、運搬車両 1 台が増車した。
- ・フォークリフト 1 台が前期の 9 期ではガソリン車だったが軽油車に変わった。
- ・回収先が基準年より約 1.2 倍に、自社便での栃木・茨城県への出荷回収が月に一度あった。
- ・以上のことに伴い、軽油の使用量が大幅に増えた。軽油の使用による CO₂ 排出量が事業全体の CO₂ 総排出量の約 75%を占め、軽油の使用が一番の環境負荷項目と言える（9期 69%）。

<ガソリン使用量>

- ・燃費の良い営業車の購入により、ガソリン使用量が大幅に減った。
- ・ガソリン使用のフォークリフトが 1 台減った。
- ・10 期間内の H28.12～H29.1 の約 2 ヶ月間、営業車を所有していなかった期間があるためガソリンの使用量が少なかったと言える。

■ガソリンの使用量と CO₂排出量の推移と達成状況

	目標 (L)	実績値 (L)	対 8 期増減数(L) 達成率(%)	評価	ガソリン CO ₂ 排出量 対 8 期増減量(kg)	8 期総 CO ₂ 排出量 に対する増減
基準年 8 期		1364			3,167 -	8 期 総 CO ₂ 34944 kg
9 期	1350	2810	1446 増	×	6,525	9.6% 増
	対 8 期△1%		106%		3,358 増	
10 期	1344	1306	58 減	○	3,032	0.4% 減
	対 8 期△1.5%		△4.3%		135 減	

【事業拡大を反映させた環境目標の達成状況】

(1) 環境効率指標による CO₂排出量の目標の達成状況

■ 「8期の売上百万に対する CO₂排出量」を環境効率指標とした目標の達成状況

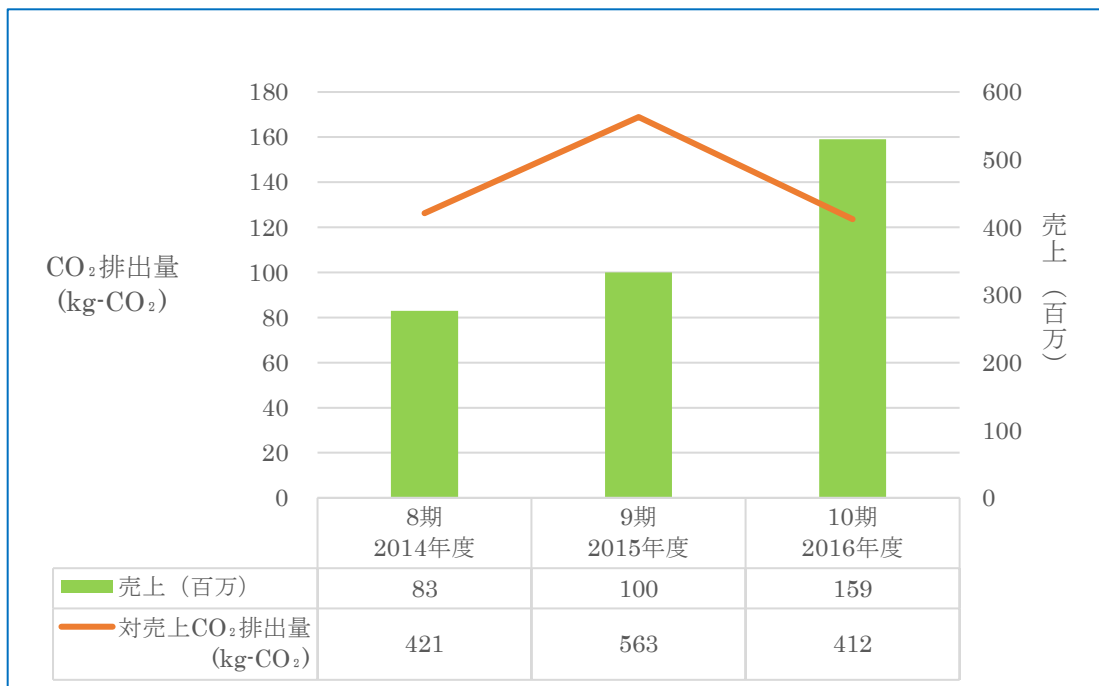
	CO ₂ 総排出量【A】 (kg-CO ₂)	売上【B】 (百万)	目標値	対売上 CO ₂ 排出量 【A/B】(kg-CO ₂)	達成率	評価
基準年 8 期	34,944	83		(指標値) 421		
9 期	56,304	100	417 △1%	(実績値) 563	33.7%	×
10 期	65,490	159	415 △1.5%	(実績値) 412	△2.1%	○

* 対売上 CO₂排出量：売上百万に対する CO₂の排出量

* 達成率 = {421 (基準年実績値) - 実績値 (A/B)} ÷ 421 (基準年実績値) × 100

* 環境効率指標値、実績値：小数点以下四捨五入

■ 売上と対売上 CO₂排出量の推移グラフ



(補足)

一番の環境負荷項目である軽油の使用は、主に収集運搬車両の回収作業が大きな割合を占めるが、9期は回収に加え自社便による出荷が多く、売上に対して CO₂の排出量が多かったと推測される。9期に比較して10期では自社便による出荷件数は減っている。

(2) 各項目の環境効率指標による目標の達成状況

■ 「8期の売上百万に対する各使用量」を環境効率指標とした目標の達成状況

	8期指標値 【使用量/8期売上】	目標値 △1.5%	使用量	実績値 【使用量/10期売上】	対指標値 達成率	評価
軽油使用量(L)	106	104	18,925	119	12.3%増	×
ガソリン使用量(L)	16.4	16.2	1,306	8.2	50%減	○
電気使用量(kwh)	157	155	19,358	122	22.2%減	○
灯油使用量(L)	3.2	3.15	465	2.9	9.4%減	○
水使用量(L)	1.3	1.28	144	0.9	30.8%減	○

* ガソリン・灯油・水の使用量は第二小数点以下を四捨五入。その他は第一小数点以下を四捨五入

(補足)

(1)のCO₂排出量の環境効率指標の評価では、10期は目標を達成できたと評価できるが、一番の環境負荷項目である軽油の使用は、事業拡大を考慮した環境効率指標を用いても12.3%増で達成ができていない。

7. 環境活動計画の取組結果と評価ならびに次年度の取組

項目	取組内容	評価	取組結果コメント	次年度の取組内容
軽油使用量削減 (トラック・重機)	① 定期点検、整備の実施	○	ドライバーに各自でチェックを行ってもらい、実行できた。	取組継続 ⑥のエコドライブを追加
	② アイドリングストップの実施	○		
	③ 適切なエンジン回転数での作業	○		
ガソリン 使用量削減 (営業車)	④ タイヤ空気圧の点検	○	実行できた	取組継続
	⑤ アイドリングストップの実施	○		
	⑥ エコドライブの実施	△	不十分であった	具体的な内容を追加する (急発進をしない、減速時は早めにアクセルを離す等)
電気使用量削減	⑦ エアコンフィルターの清掃	○	実施できた	取組継続
	⑧ 未使用機器のコンセントを抜く	○		
	⑨ パソコン、プリンターを使用しない時は省エネモードに切替える	○		
灯油使用量削減	⑩ 暖房は必要なときのみ使用し、消し忘れないようにする	○	実施できた	取組継続
水使用量削減	⑪ 蛇口の閉栓確認	○	実施できた	取組継続
	⑫ 手洗い、流し台、洗車時の節水	△	節水の掲示物がはがれたままになっていた	取組継続 現在洗車していないため項目から外す
グリーン購入 の推進	⑬ 環境に配慮した商品の購入を推進	○	実施できた	取組継続
	⑭ グリーン購入に関する知識を深めるため勉強会等の実施	×	実施できなかった	取組継続
場内外美化緑化 活動	⑮ 季節に応じた草花の栽培	○	実施できた	取組継続
	⑯ 地域の清掃活動の実施	○	ゴミ拾い・草刈を実施	取組継続
教育訓練	⑰ エコアクション 21 の意識浸透のための説明会の実施	○	全体朝礼にて実施できた	取組継続
	⑱ 全体会議での進行状況の報告	×	掲示物での報告のみ実施	取組継続

<評価> ○：実行できた △：不十分であった ×：達成できなかった

8. 環境活動の紹介

① エコアクション 21 の説明会

H29. 2. 3 全体朝礼にて EA21 への理解を深めるため説明会を実施



② 場外清掃活動 H29. 4. 21 会社周辺のゴミ拾い・草刈活動を実施



③ 構内緑化活動 季節毎に花を植替え、構内の美化緑化活動を実施



④ 火災訓練

H29.8.30 ギロ山からの出荷を想定した火災訓練を実施



⑤ 掲示物・表示による活動



電気の省エネ・節水などの呼びかけ



エコ運転の意識向上のため車両毎に燃費をグラフ化

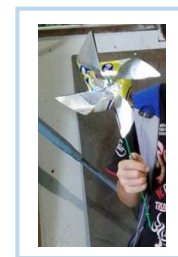


照明の設置場所とボタンの位置を分かりやすく表示

無駄な照明を消しやすくした

⑥ 小学生の職場見学の受入

H29.8.2 にかほ市主催の「夏休み親子職場見学会」



会社説明・見学後、
アルミ缶で風車を作成

9. 環境関連法規等への違反・苦情等の有無

(1) 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等御の有無

当事業が適用を受ける主な環境関連法規として、廃棄物処理法、消防法、浄化槽法、公害防止協定などがありますが、遵守確認を行った結果、環境関連法規について過去3年間に違反や行政指導はありませんでした。

(2) 外部からの苦情等の受付結果

取組期間中、周辺地域からの苦情はありませんでした。

10. 代表者による全体評価と見直しの結果

(1) 全体評価

現場作業での環境意識がまだまだ低い。回収車両の燃費が良くなるようにエコ運転実施について取組を計画する。

環境経営システムについては、まだ不慣れでシステムとして機能していない。計画への取組や達成状況の確認が重要になってくるので、チェック時期や「誰が」を明確にする。

環境目標の達成状況評価について、前期の見直しを踏まえ環境効率指標をつくり達成状況を確認できたことが非常に良かった。

(2) 見直し

事業動向が落ち着くまで毎年目標の見直しが必要。

計画や評価、改善等、代表者（環境管理責任者）と環境管理事務局員の2名のみで行ってきたが、今後は委員会として増員し4～5名でP.D.C.Aを行っていく。

本レポートについてご感想やご意見をいただければ幸いです

秋田マテリアル株式会社 エコアクション 21 事務局

〒018-0402 秋田県にかほ市平沢字深谷地 16-8

TEL : 0184-74-5277 FAX : 0184-74-5278

Mail: aoki@akita-material.com